

日常生活行動に対する大学教員と学生の許容意識 -授業中の行動を中心として-

Opinions of University Teachers and Students on permissibility of Students' Daily Life Behaviors - Especially of Behaviors during Class -

石垣 尚 男 †

Hisao ISHIGAKI

Abstract

A questionnaire-style survey was conducted in university teachers regarding opinions on permissibility of students' various daily life behaviors. The survey compared the responses regarding permissibility between teachers and students.

The main results were as follows:

1. In this survey, the teachers were divided two age groups, the younger generation group and the older generation group. The younger generation group marked higher permissibility rates than the older generation group regarding most behavioral items.
2. The teachers marked low permissibility rates to students' behaviors during class: great gaps were noted between the responses by the teachers and those by the students. 1.7 % of the teachers found permissible behaviors which disturb nearby students, such as eating foods and having private conversations, suggesting that they were highly critical of those behaviors.
3. Also, the teachers were critical of behaviors representing disregards to teaching during class or arbitrarily leaving the classroom during class. However, 20-30 % of the students answered that those behaviors were permissible.
4. As for the opinions on permissibility of students' behaviors during class, no difference was found between the groups of younger and older generation teachers.

1. はじめに

1-1 社会的迷惑

私たちが日常生活を快適に保てる背景に、一般にマナー、エチケット、行儀、礼儀、公衆道徳などと呼ばれるいわゆる社会規範が存在する。良識ある暗黙の了解の下、他人に迷惑をかけないことが基本的な社会規範であるが、その規範が大きく揺らいでいる。それにともない他人への迷惑行為が増え、さまざまなトラブルが起きている。

吉田らは¹⁾ 社会的迷惑行為が増えた背景として①共同体社会の崩壊と生活空間の拡大により相互監視システムが機能しなくなったこと、②情報化社会への移行により価値観の多様化が進み、個人の価値判断が優先される社会になったことをあげている。

もちろん迷惑行為には、行為者の意識だけでなく自分

がそれにより被害を受けないなら迷惑とは思わないという感じる側の意識の問題もある。

斎藤²⁾ は、個人空間を社会として意識している程度、または複数の個人からなる社会を考えようとする態度から「社会考慮」という概念を提案し、迷惑を感じる程度との関連について検討しており、社会考慮の高い人ほど迷惑認知が高いことを指摘している。

さらに社会考慮は個人特性や人生観と関連し¹⁾、社会への関心が薄く、自己利己の人生観の人ほど迷惑の認知が低く、逆に社会への関心が高く、博愛的、道徳的人生観が強いほど迷惑認知が高いことも指摘されている。社会考慮の高い人の迷惑認知が高い理由として石田ら⁴⁾ は、高い人は社会全体を人と人との相互依存としてとらえるので、ある行為を判断する際、その行為が自分を含めた他者や社会全体にとってどういう意味をもつかを考慮するためであるとしている。社会における他人への関心の欠

† 愛知工業大学 経営情報科学部
マーケティング情報学科 (豊田市)

如は, 迷惑行為を行う側の増加, それを迷惑とは感じない認知の低下という双方から迷惑行為を増加, 助長させているものと思われる。

学校を例にあげれば 1989 年から 1994 年の 5 年間で中学生と高校生の「学校をさぼる」「万引きをする」などの非行についての許容性が増大し, 「人にうそをつく」「人を困らせる」などの罪悪感が薄れたことが報告³⁾されている。

相川⁵⁾は対人関係に対する社会的スキルが子供たちの間で獲得できていないことを指摘し, その原因として①家庭での教育力の低下, ②地域社会での教育力の低下, ③学校教育での知育偏重, ④産業界での学歴偏重をあげている。

1-2 授業中の私語

大学教育においても例外ではなく, 授業中にもさまざまな迷惑行為が起きる。その代表的なものとして私語がある。

大学・短大教員にどのようなものを私語とするかについて調査した結果⁶⁾では授業中のおしゃべりはすべて(28.6%), 授業を妨げるおしゃべり(35.9%), 授業内容に直接関係しないおしゃべり(34.5%)であり, 教員によって私語のとらえ方が異なっていることを指摘している。

また, 学生の約 7 割が「私語はしてはいけない」という規範意識をもっているという報告⁷⁾や, 59%の学生が「絶対にいけない」という規範意識をもっているにもかかわらず 85%が「ついしてしまう」という報告⁸⁾もある。

須藤⁹⁾は授業中よく私語をする人は, 私語をほとんどしない人にくらべ親密な人間関係をもっており, 私語は「クラスの中の一部の仲間たちとうまくやっていくための適度な適応によるものとさえいえる」と考察している。

これを裏付けるように出口ら¹⁰⁾は, 個人的には私語を「してはいけないこと」と思っているにもかかわらず, 実際には私語をしてしまうのは「授業中の私語」という社会的に望ましくない行為をすると逆に「対人関係にたいする適応が高まる」ことになることを指摘しており, 私語発生の複雑さを示唆するものとなっている。

また, 卜部ら¹¹⁾は中学・高校・専門学校の 33 クラス, 計 1490 名を対象にしたアンケート調査をもとに「私語が多くなるにつれてみんなが非難する」と生徒によって認知されているクラスでは教師の判定による限り私語は少なく, 「私語が多くなっても大して非難されない」と生徒が考えているクラスでは担当教師が「やかましい」と思う程度に私語がなされておき, 「生徒たちは私語は望ましくないが, クラスのみんなは私語に寛容だから私語してもよからう」という規範の過寛視があると指摘している。

さらに生徒個人は「意外」にやや真面目な私的見解をもちながら, 彼らの準拠集団の期待に応じて「偽悪的」に行動する結果として私語をする生徒が発生しやすいと考察している。

石垣¹²⁾は大学生の日常生活行動に対する許容意識について調査した。この中で授業中の私語については男子の 29.2%, 女子の 22.4%が許容していた。いかえれば約 7 割に私語に対して非許容意識があり, 7 割が規範意識を持っているとする岩淵ら⁷⁾の結果とほぼ一致している。

表 1 は同報告¹²⁾における私語を許容する学生と非許容学生の授業中の他の行動に対する許容割合である。私語を許容するものは①授業中に漫画, 雑誌などを読むこと, ②パソコン・インターネットをすること, ③帽子をかぶる, ④携帯でゲームをするなども許容する割合が高く, 逆に私語を許容しない学生はこれらの行動についても厳しい意識をもっていることがわかる。いわば真面目な学

生とそうではない学生の二局化が進んでいるように思われる。

表 1 私語の許容・非許容による授業中の行動に関する許容(%)

	許容	非許容	X ² 独立性
①漫画, 雑誌などを読む	61.8	17.6	* <.05
②パソコン・インターネット	50.3	12.9	
③教室の中で帽子をかぶる	46.7	30.3	
④携帯電話でゲームをする	54.5	11.7	

2. アンケート調査の目的と方法

2-1. 目的

教員からすれば授業中の私語のみならず他の学生への迷惑行動, あるいは授業倦怠, さらに自身の授業への忌避と感じるさまざまな行動や行為があり, 授業運営の大きな妨げと感じる教員も少なくない。しかし, 喫煙やゴミのポイ捨てなどの授業以外の行動に対しては学生も「大人」としての意識を持っている¹²⁾。

教員として授業中の行動, 授業以外の行動に対する学生の許容意識, いかえれば授業と授業以外の使い分けを知ることは重要である。

また同じ教員であっても年代によって許容意識は違うはずであり, 教員世代間の許容意識の違いを明らかにすることも必要である。このアンケート調査は教員と学生の日常生活行動に対する許容性の違いを明らかにすることを目的として行ったものであり, 授業中の意識の違いを中心に結果を報告する。

2-2. 方法

私立 A 大学, 国立 B 大学の教員に無記名で末尾のアンケートをおこなった。調査期間は 2005 年 9 月～11 月である。アンケート内容は学生に行ったアンケート¹²⁾と共通部分を使用し, 結果を学生と比較した。

回答数は, 20 代(1 名), 30 代(18 名), 40 代(41 名), 50 代(50 名), 60 代(59 名), 70 代(1 名)無記入 6 名の計 176 名であった。無記入を除き, 30 代, 40 代を「前半世代」, 50 代, 60 代を「後半世代」に分けた。20 代, 70 代の各 1 名はそれぞれに組み入れた。

統計検定は X²独立性の検定を行い 5%以下を有意差ありとした。なお, 比較対象である大学生は, 男子は私立大学 1 校, 女子は公立 1 校, 私立大学 3 校である。回答数は男子 291 名, 女子 348 名, 無記入 21 名, 計 660 名である。性差は考慮せずに集計した。なおアンケートでは他者の行動への許容か, 自分の行動への許容かの区別をしていない。許容意識があることは自他の行動への許容であると解釈して分析した。

3. 結果と考察

3-1. 授業中の行動への許容意識

表 2 は授業中の行動や行為に対する教員と学生の許容意識の違いである。全体を通して教員と学生に大きな意識の違いがあることがわかる。

①私語については学生の 25%が許容されると思っているが, 教員で許容するものは 1.7%である。もちろん, 何を私語とするか教員間でも異なる⁶⁾が, ここでは私語の定義をしていない。許容率 1.7%は教員が私語に対して厳しい見方をしていることを示している。

これに対し, ②飲み物を飲むでは学生の約半数, 教員の 1/4 が許容しており, 私語と比較して教員の意識は寛容である。現在では学会などでは会場内での飲みものは

自由なところがほとんどであるため、教員も学生の授業中の飲み物に寛容ではないかと思われる。教員世代間では30代、40代の前半世代では35%が許容しており、16%である50代、60代の後半世代との意識の違いが明確である。

同様な傾向があったのは⑫教室の中で帽子をかぶることである。学生の約1/3が許容し、教員の2割近くが許容している。室内で帽子をかぶることは日本の文化に根付いていないと思われるが、学生の間では1/3が許容するまでになっている。これも飲み物と同じく教員間では前半世代の方が許容率が高い。

いいかえれば飲み物を飲む、教室で帽子をかぶるなどの直接他の学生の授業に影響を及ぼさない行為に関して教員は比較的寛容であるといえよう。これに対し、私語をはじめとして、③教室の中で食べたり、④教室の中で電話するなどの他の学生へ直接影響を及ぼす行動や、また⑧漫画・雑誌を読んだり、⑩ゲームしたりといった倦怠行動、あるいは授業への忌避行動をとることにに対してはほとんどの教員が許容していない。

ただし、⑤退室して電話をすることは教員の12%が許容しており、学生の許容率も48%で、これらの中ではもっとも許容率が高い。教室を出て電話するなら直接自分へ影響しないので学生の約半数が構わないとしていると思われ、これに対して教員も許容率は低いものの、せめて教室を出て電話するのであれば、という学生と共通の意識があるものと推測される。これらの授業中の行動への許容意識に教員の世代間の違いはない。

授業中の行動や行為に対し、学生たちの許容意識は基本的に授業に影響しないものであるなら許容性は高く、授業への倦怠行動や忌避行動に対しての許容率は2~3割程度であり、これらには意外と厳しい評価をしている。授業中の行動や行為への教員とのギャップは大きく、許されると思っている学生たちと許容できないと考える教員との間の意識の差は大きい。

表2 授業中の行動に対する教員と学生の許容意識 (%)

	教員	学生	X ² 独立性	前半世代	後半世代	X ² 独立性
①私語をする	1.7	25.2	** < 01	3.4	0.9	ns
②飲み物を飲む	23.7	47.7		35.6	16.5	
③食べ物を食べる	1.7	19.1		3.4	0.0	
④教室の中で電話をする	0.0	7.3		0.0	0.0	
⑤退室して電話をする	11.9	47.9		11.9	11.0	
⑥教室の中でメールする	2.3	42.3		1.7	1.8	
⑦退室してメールする	8.5	36.1		10.2	7.3	
⑧漫画、雑誌などを読む	2.8	28.6		5.1	0.9	
⑨パソコン・インターネット	4.0	22.3		5.1	2.8	
⑩携帯電話でゲームをする	1.1	22.4		1.7	0.9	
⑪タバコを吸いに教室を出	3.4	23.8		3.4	2.8	
⑫教室の中で帽子をかぶる	18.6	34.5		28.8	11.9	

3-2. 通勤・通学時の電車やバスの中での行動

表3は通勤・通学時の電車やバスの中での行動への許容意識である。「電車の中では携帯電話の使用はお控え下さい」という車内放送にもかかわらず、通勤・通学時の電車やバスの中での電話やメールは日常的である。

石川¹³⁾は電車内での携帯電話の使用は控えるべきというマナーに対する大学生の意識では、携帯電話が「電車

表3 通勤・通学時の電車やバスの中での行動への意識 (%)

		教員	学生	X ² 独立性	前半世代	後半世代	X ² 独立性
①飲み物を飲む	構わない	7.3	21.8	*	13.6	3.7	*
	混雑してなければ	55.4	59.7		57.6	54.1	
	絶対にダメ	29.4	5.2		23.7	32.1	
②食べ物を食べる	構わない	4.5	10.0	**	6.8	2.8	ns
	混雑してなければ	37.3	55.9		40.7	35.8	
	絶対にダメ	47.5	17.9		42.4	50.5	
③通話する	構わない	1.7	7.9	*	1.7	1.8	ns
	混雑してなければ	27.1	34.2		30.5	23.9	
	絶対にダメ	55.4	37.9		52.5	56.9	
④メールする	構わない	32.2	47.4	**	42.4	25.7	ns
	混雑してなければ	40.7	32.9		33.9	45.9	
	絶対にダメ	20.9	4.8		18.6	21.1	

内の一時的な共同性を破壊する」ことよりも「単に音がうるさいこと」の方が有力であったとしている。

また、木下¹⁴⁾は成人女子を対象とした携帯電話の受容性について調査している。交通機関の中、授業中、会議中に携帯電話を使うことに対しての成人女子の許容度は低い。公共の場での携帯電話の使用をすべて問題視するわけではなく、他者の領域をどの程度侵害するかによって可否の評価が異なっており、目をそらせば見ずにすむようなものは受容するが、気にしなくても耳に入ってくるという不可侵領域を脅かすものに対しては許容度は低いと考察している。

これら4つの行動・行為についてどの項目でも教員の許容率は有意に低く、学生は高い。教員でもこれらに対して、「構わない」「混雑していないなら」を併せると、飲み物で62%、食べ物で41%、通話が29%、メールが72%であり、通話を除いて許容する割合は高い。教員も本来は控えるべきであるが、「混雑してなければ(他の迷惑にならないので)構わない」という意識があることがわかる。

これらの行動・行為についてすべての項目で、教員の方が学生より「構わない」が少なく、「絶対にダメ」という割合が高い。授業中の許容意識ほどの差はないが、教員の方が厳しい意識をもっていることがわかる。

②食べ物を食べることに对学生の「絶対にダメ」とする割合は①飲み物を飲むことより多い。車内での臭いなどがその背景にあると思われる。

教員も学生も、電車内での携帯電話の使用は他の3つ

の行為より厳しい見方をしている。教員も学生も通話とメールではメールより電話の許容性が低い。木下¹⁴⁾の指摘のように目をそらせば見ずにすむようなもの(メール)は受容するが、気にしなくても耳に入ってくるもの(電話)に対して許容度は低いことを示している。

教員世代間では、①飲み物を飲むことに対してのみ有意な差があった。前半世代では後半世代より飲んでも構わないが多く(13.6%)、絶対にダメ(23.7%)が少ない。全体を通して、前半世代の方が通勤・通学の電車やバスの中でのこれらの行動・行為に対して寛容である。

3-3. 日常生活行動に対する許容意識

表 4 喫煙に対する許容意識 (%)

	教員	学生	X ² 独立性	前半世代	後半世代	X ² 独立性
①歩行中に喫煙する	4.5	13.9	ns	1.7	4.6	ns
②トイレでタバコを吸う	5.1	18.8		6.8	3.7	
③タバコの灰を落とす	4.0	12.3		6.8	1.8	
④吸殻のポイ捨てをする	0.0	3.0		0.0	0.0	

喫煙に関わる行動に対しては学生の許容率は教員より高いものの、最大で②トイレでタバコを吸う(18.8%)である。教員も学生も喫煙に対しては厳しい見方をしている。また喫煙に関しては教員世代間で差はない。

表 5 歩行中の行動に対する許容意識 (%)

	教員	学生	X ² 独立性	前半世代	後半世代	X ² 独立性
⑤歩きながら飲む	32.2	72.0	ns	40.7	24.8	ns
⑥歩きながら食べる	19.2	55.8		20.3	16.5	
⑦容器のポイ捨て	0.0	1.5		0.0	0.0	
⑧歩きながら電話する	53.1	80.8		55.9	51.4	
⑨歩きながらメールする	40.1	70.9		44.1	37.6	

教員と学生では統計的に有意差はないものの、歩行中の行動の中で、⑤歩きながら飲み物を飲むことについて教員で許容するのは 32.2%であるのに対し、学生では 72%が構わないとしている。

⑥歩きながら食べることは、⑤飲むことより許容率は低いが、それでも学生では 55.8%であり、教員で 19.2%、約 1/5 が許容している。

⑧歩きながらの電話やメールでは教員では約半数は許容しているが、学生では 7 割以上にのぼっている。教員世代間でも有意差はないものの、これらの行動や行為に対して、前半世代の方が許容率が高い。

⑦容器のポイ捨てについては教員、学生を問わず、厳しい見方をしている。

歩きながら飲むこと、食べることは一昔前であれば「みっともない」ととされていたが、歩きながら飲んだり(飲ませる)、食べる(食べさせる)食品があふれている現在では、学生は歩行中に飲んだり食たりすることは別

に構わないのでは、むしろなぜダメなのかと思っていることがわかる。また教員でも歩きながら飲むことは前半世代で 40%が、食べることは 20%が許容していることからすると、歩きながらの飲み食いもやがてみっともないことではないという時代が来るように思われる。

表 6 その他の行動に対する許容意識 (%)

	教員	学生	X ² 独立性	前半世代	後半世代	X ² 独立性
⑩電車内で化粧する	9.0	18.6	ns	16.9	4.6	ns
⑪電車内で床に座る	2.3	7.9		1.7	2.8	
⑫つばを道に吐く	3.4	9.5		3.7	4.0	
⑬ガムを道に捨てる	0.0	4.5		0.0	0.0	
⑭ゴミのポイ捨てをする	0.0	3.2		0.0	0.0	

許容するものはいずれもわずかである。教員と学生の差もない。公共性のある場所を占拠したり、汚したりする迷惑行為に対して教員はもちろんのこと、学生も厳しい目を向けていることがわかる。

しかし、⑩電車内での化粧については許容率は少ないものの、他の⑪~⑭に比較して許容率は高い。学生で約 2 割、教員で 1 割である。教員前半世代では学生の許容率に近い。逆に約 8 割以上は許容しないことは、化粧という極めて私的行為を衆目の面前で行う行儀の悪さ、みっともなさ、公私空間の使い分けができないことに対して、多くのものが眉をひそめていることを示している。しかし、床に座ったり、ゴミを捨てるなどの迷惑行為に比較して許容率が高いことは、化粧はそれにより直接、自身が被害を受けるわけではなく、それならば迷惑とは思わない、いいかえれば目をそらせば済む行為ととらえるからではないかと思われる。

4. まとめ

大学教員を対象に、日常生活行動に対する許容意識をアンケート調査し、学生の意識と比較した。主要な結果は以下のようである。

- ① 教員前半世代(30代, 40代)、後半世代(50代, 60代)では、ほとんどの行動や行為に対して、前半世代の方が許容率は高く、世代間で意識の違いがある。
- ② 授業中の行動・行為に対して教員の許容率は低く、学生との間のギャップは大きい。私語や、食べ物を食べるなどの直接、周囲の学生に影響する行動に対しての教員の許容率は 1.7%であり、これらには厳しい見方をしている。
- ③ さらに漫画や雑誌を読む、ゲームをするなどの倦怠行動や授業への忌避行動に対しても厳しいが、これらが許容されると考える学生は 2~3 割にのぼる。これに対し、飲み物を飲む、帽子をかぶるなどの行動については教員の許容率が高い。
- ④ 教員前半世代と後半世代の間で授業中の行動に対する許容意識に差はない。
- ⑤ 電車やバスの中での飲食や電話、メールなどの行動ではどの項目でも教員の許容率は低く、学生は高い。しかし、教員でもこれらに対して本来は控えるべきであるが、混雑していなければ構わないという意識があると思われる。

- ⑥ 喫煙に関わる行動に対しては教員、学生とも厳しい見方をしており、両者の間に顕著な差はない。
- ⑦ 歩行中の飲食や電話、メールなどはいずれも学生の許容率は高く、歩きながら飲むことは7割が、歩きながら食べることも5割以上が許容している。
- ⑧ 電車内で座ったり、つばを道に吐くなどに対する学生の許容率は低く、公衆道徳を遵守しようとする意識が伺われる。

参考文献

- 1) 吉田俊和, 安藤直樹, 元吉忠寛, 藤田達雄, 廣岡秀一, 斎藤和志, 森 久美子, 石田靖彦, 北折充隆「社会的迷惑に関する研究 (1)」, 名古屋大学教育学部紀要, 46, 53-73, 1999.
- 2) 斎藤和志「社会的迷惑行為と社会を考慮すること」, 愛知淑徳大学論集 (文学部編), 24, 67-77, 1999.
- 3) 中里至正, 松井博編「異質な日本の若者たち-世界中の高生のおもいやり意識-」, プレーン出版, 東京, 1997.
- 4) 石田靖彦, 吉田俊和, 藤田達雄, 廣岡秀一, 斎藤和志, 森 久美子, 安藤直樹, 北折充隆, 元吉忠寛「社会的迷惑に関する研究 (2) -迷惑認知の根拠に関する分析-」, 名古屋大学大学院教育発達研究科紀要47, 25-33, 2000.
- 5) 相川 充「対人関係能力の低下と現代社会」, 名古屋大学教育学部紀要 (心理学), 44, 17-24, 1997.
- 6) 島田博司「私語への教育指導 -大学授業への生態誌2-」, 玉川大学出版部.
- 7) 岩淵千明, 小牧一宏「学生の授業に対する規範意識の研究」, 日本グループ・ダイナミクス学会第44回大会発表論文集, 174-175, 1996.
- 8) 小牧一宏, 岩淵千明「授業規範 - 反規範行為における意識構造」, 日本心理学会第61回大会発表論文集, 381, 1997.
- 9) 須藤 廣「授業中の私語現象に関する社会学的研究-私化現象としての私語-」, 北九州大学文学部紀要 (人間関係学科), 3, 29-48, 1996.
- 10) 出口拓彦, 吉田俊和「大学の授業における私語の頻度と規範意識・個人特性との関連:大学生活への適応という観点からの検討」, 社会心理学研究, 21, 2, 160-169, 2005.
- 11) ト部敬康, 佐々木薫「授業中の私語に関する集団規範の調査研究 -リターン・ポテンシャル・モデルの適用-」, 教育心理学研究, 47, 3, 283-292, 1999.
- 12) 石垣尚男「大学生の日常生活行動に対する許容意識」, 愛知工業大学研究報告, 40, 243-248, 2005.
- 13) 石川幹人「メディアがもたらす環境変容に関する意識調査 - 電車内の携帯電話使用を例にして -」, 情報文化学会, 7, 1, 11-20, 2000.
- 14) 木下結加里, 米谷淳「成人女子のメディアの使い分けとその受容」, Hum Interface, 13, 2, 327-332, 1998.

日常生活行動に対する大学教員の許容意識についての調査

年代（ ）代 喫煙者（1日1本以上吸う人）： 非喫煙者

一般論ではなく、先生自身のお考えで回答して下さい

Q1 喫煙について、許容されると思うものに○をつけて下さい（複数回答可）

1. 歩行中に喫煙する
2. トイレで吸う
3. 灰を落とす
4. 吸殻のポイ捨てをする
5. 授業中、教室を抜けて吸いに行く
6. 食事中に喫煙する

Q2 飲み物について、許容されると思うものに○をつけて下さい（複数回答可）（ ）内は○を1つ打つ下さい

1. 通学・通勤時の電車やバスの中で飲む（構わない 混雑していなければよい 絶対にダメ）
2. 歩きながら飲む
3. 容器のポイ捨てをする
4. 授業中に飲む

Q3 食べ物について、許容されると思うものに○をつけて下さい（複数回答可）（ ）内は○を1つ打つ下さい

1. 通学・通勤時の電車やバスの中で食べる（構わない 混雑していなければよい 絶対にダメ）
2. 歩きながら食べる
3. 容器のポイ捨てをする
4. 授業中に食べる

Q4 携帯電話の通話について、許容されると思うものに○をつけて下さい（複数回答可）（ ）内は○を1つ打つ下さい

1. 通学・通勤時の電車やバスの中で通話する（構わない 混雑していなければよい 絶対にダメ）
2. 歩きながら使う
3. 授業中に教室の中で使う
4. 授業中に退室して使う

Q5 携帯メールについて、許容されると思うものに○をつけて下さい（複数回答可）（ ）内は○を1つ打つ下さい

1. 通学・通勤時の電車やバスの中でメールする（構わない 混雑していなければよい 絶対にダメ）
2. 歩行中にする
3. 授業中に教室の中でメールする
4. 授業中に退室してメールする

Q6 以下について、許容されると思うものに○をつけて下さい（複数回答可）

1. 学校に香水をつけてくる
2. 授業中に私語をする
3. 授業中に漫画、雑誌などを読む
4. 授業中にパソコン、インターネットをする
5. 教室の中で帽子をかぶる
6. 授業中に携帯電話でゲームをする
7. 電車内で化粧をする
8. 電車内で床に座る
9. つばを道に吐く
10. ガムを道に捨てる
11. ゴミのポイ捨てをする

ご協力ありがとうございました

(受理 平成18年3月17日)